

山口県 令和4年度完了報告書

令和4年度「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方」に関する調査研究の完了報告書を次のとおり提出します。

1. 調査研究概要

本県では、令和元年度から4年度にかけて、文部科学省委託事業「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」を受託し、令和2年度に作成した「カリキュラム・マネジメントの手引き」を令和3年度から活用することを通して、全県の公立小・中学校に対して、カリキュラム・マネジメントの推進を図ってきた。

研究テーマとして、「これからの時代に求められる資質・能力を育むための教育活動の在り方」を掲げ、「実践校において、カリキュラム・マネジメントの三つの側面から各教科や総合的な学習の時間の内容を充実させることや児童生徒が学校運営協議会等に参加する機会を設けることで、児童生徒が主体的に学ぶ意欲や地域社会の形成に参画する意識を高めるとともに、育成をめざす資質・能力への教職員の意識を高めることができるだろう。」という研究仮説の実証に努めた。

「これからの時代に求められる資質・能力を育むための教育活動の在り方」を全県展開するための具体的な取組は以下の通りである。

1. カリキュラム・マネジメントの推進役としての学力向上推進リーダーの任命

カリキュラム・マネジメントを全県的に推進していくため、教頭職の中から学力向上推進リーダーとして28名を任命し、各学校の「社会に開かれた教育課程」の実現を支援することとした。学力向上推進リーダーが配置校や兼務校を継続的に訪問し、カリキュラム・マネジメントに関する指導・助言を行う学校付きの指導主事的役割を担うことにより、学校と家庭・地域の連携・協働による教育活動の推進や、教員一人ひとりのカリキュラム・マネジメントに対する意識の向上が図られるようにした。

2. 「学校・地域連携カリキュラム」の作成と活用の促進

本県では、多くの人々と表情豊かに関わり合いながら、課題に向き合い、協働で課題を解決していきけるような子どもたちの姿がどの学校でも見られることをめざして「学校・地域連

携カリキュラム」を作成し、その活用を促してきた。「学校・地域連携カリキュラム」とは「社会に開かれた教育課程」の実現を推進するための各校の共通ツールとなるものであり、ビジョンとしての「学校の基本方針を示すグランドデザイン」と、設計図としての「総合的な学習の時間を核とした9年間の単元配列表」で構成されたものをさす。「学校・地域連携カリキュラム」を取り上げた「カリキュラム・マネジメントの手引き」（令和3年3月作成版）を県主催の研修会のたびに活用し、「学校・地域連携カリキュラム」を見直すプログラムを組み込むことで、学校の体質改善につなげることを意識した。

3. 全ての公立学校がコミュニティ・スクールである強みを生かした教育活動の充実

全ての公立学校がコミュニティ・スクールであることで、どの学校・家庭・地域、教育委員会でも、目標を共有し、「社会に開かれた教育課程」の実現を図りやすくなっている。コミュニティ・スクールを核とした学校運営において「学校・地域連携カリキュラム」を活用することにより、子どもたちがどの学校に通っても一定の教育水準が維持できる体制となっている。

4. 様々なキャリアステージを対象とした研修会やオンライン情報交換会の設定

学力向上推進リーダーと市町教育委員会指導主事を対象に、年間を通じてオンライン情報交換会を開催することで、知識・理解をブラッシュアップしたり、つまづきを共有したりした。また、管理職対象だけでなく、カリキュラム・マネジメントの経験の浅い教員を対象とした研修会を設定し、カリキュラム・マネジメントの裾野を広げる研修を設定した。

また、新しく作成する「カリキュラム・マネジメントの手引き」に掲載する学校を意図的に年間の研修会に組み込み、取組を引き出して紹介することで、発表校にはカリキュラム・マネジメントが進んでいる学校としての自信をもって先頭を走ってもらい、その取組を全県に発信することで各校の取組を動かすことにつなげてきた。そうすることで、手引きに掲載されている学校は、常に他校からの注目が高い、好事例校としての存在価値を示すことができ、手引き活用にプラスとなって働くと考えた。

5. 子どもが参加する熟議や子どもの思いや願いを学校運営に反映する取組の奨励

熟議を学校教育目標の実現にどうつなげるかという学校運営の面に着目し、熟議に子どもたちを加え、子どもたちの意見を学校運営に反映させること、子どもも授業・学校・地域づくりに貢献できる存在であることを大切に取る取組が広がるよう学校に働きかけてきた。それに加え、地域課題を解決するための学級会や生徒総会での提案や協議を経て、子どもが考案したことを学校と地域が一体となって実現するような好事例の普及を行った。

6. カリキュラム・マネジメントシートを活用した各校の取組の把握

学力向上推進リーダーや指導主事には、カリキュラム・マネジメントシートを活用し、各学校の取組状況の聞き取りや進捗状況の確認を行ってもらった。対話を通して、悩みに寄り添ったり、障壁を乗り越えたりするためのアドバイスを行ってきた。学校訪問の際に、カリキュラム・マネジメントについて聞いたり聞かれたりする機会をもつことが、カリキュラム・マネジメントの推進に役立った。

以上のような取組により、カリキュラム・マネジメントの推進を図ってきた。具体的に実施してきた研修会や働きかけは次の通りである。

(実践地域における年間実施スケジュール)

・学力向上推進リーダーの活動、◇情報交換会、○研修会、□県教委の取組

月	取組内容
4月	<p>○義務教育関係主事研修会（4/13）…所管説明</p> <p>○合同研修会における、県教育委員会地域担当指導主事と市町教育委員会学校担当指導主事との情報共有</p> <p>◇オンライン情報交換会（4/28）…学力向上推進リーダー、市町教委指導主事を対象とした所管説明、実践事例の共有</p> <p>・学力向上推進リーダーによるクラウドを活用した取組の共有…学校運営協議会における熟議の取組、「学校・地域連携カリキュラム」のこだわりやうりが教科や総合的な学習の時間などにどう生かされているかについてスライドを作成</p>
5月	<p>◇中心校校長会連絡協議会（5/9）…学校・家庭・地域の連携力に関する協議</p> <p>○カリキュラム・マネジメント研修会（5/19）…学力向上推進リーダー対象</p> <p>【内容】①所管説明、②実践事例発表（美祢市立大嶺中学校 学力向上推進リーダー 原川 智恵）、③対談「コミュニティ・スクールの仕組みをいかしたカリキュラム・マネジメント」（山口大学教育学部 特命教授 松田靖、防府市立松崎小学校 校長 秋川茂）、③グループ協議「各校における学校・地域連携カリキュラムの現状と課題」</p> <p>○文部科学省カリキュラム・マネジメント連絡協議会（5/30）</p>
6月	<p>◇オンライン情報交換会（6/9）…学力向上推進リーダー、市町教委指導主事対象</p> <p>・学力向上推進リーダーの本務校・兼務校における研修</p> <p>・カリキュラム・マネジメントシートを活用した各校の取組の把握・協議・報告</p> <p>□県教委による学校訪問</p>
7月	<p>○山口県小・中学校管理職リーダーシップアップ研修会（7/8）</p> <p>【内容】①所管説明、②講義「社会に開かれた教育課程の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの在り方」広島大学大学院教育学研究科 教授 曾余田浩史、③情報交換・研究協議</p> <p>□県教委による学校訪問</p>
8月	<p>◇県教育委員会指導主事と市町教育委員会学校担当指導主事との情報共有</p> <p>○第1回カリキュラム・マネジメント検討会議（8/30 その1）</p> <p>【内容】学力向上推進リーダー14校の「学校・地域連携カリキュラム」の検討</p> <p>【指導助言】山口大学教育学部 教授 静屋智、特命教授 松田靖、周南市立徳山小学校 校長 磯村勇、光市立浅江中学校 校長 吉岡智昭、美祢市立大嶺中学校 校長 中島幹晃、岩国市教育委員会 指導主事 森川和美、防府市教育委員会 ICT教育推進係長 浅野間智子</p> <p>・学力向上推進リーダーによるクラウドを活用した活用した取組の共有…学校運営協議会における熟議や「学校・地域連携カリキュラム」のこだわりやうり、「学校・地域連携カリキュラム」を見直す視点についてスライドを作成</p>
9月	<p>◇オンライン情報交換会（9/8）…学力向上推進リーダー、市町教委指導主事対象</p> <p>○第1回カリキュラム・マネジメント検討会議（9/13 その2）</p> <p>【内容】学力向上推進リーダー2校の「学校・地域連携カリキュラム」の検討</p>

	<p>【指導助言】光市教育委員会 地域連携教育エキスパート 木本育夫、山陽小野田市教育委員会 指導係主任 近江誠一郎</p> <p>○第1回カリキュラム・マネジメント検討会議（9/14 その3）</p> <p>【内容】学力向上推進リーダー12校の「学校・地域連携カリキュラム」の検討</p> <p>【指導助言】山口大学教育学部 教授 静屋智、特命教授 松田靖、光市教育委員会 地域連携教育エキスパート 木本育夫、周南市立徳山小学校 校長 磯村勇、光市立浅江中学校 校長 吉岡智昭、美祢市立大嶺中学校 校長 中島幹晃、岩国市教育委員会 指導主事 森川和美、防府市教育委員会 ICT教育推進係長 浅野間智子、山陽小野田市教育委員会 指導係主任 近江誠一郎</p> <p>○県市町自主研修会（9/15）…「学校運営と人材育成」</p> <p>【講師】山口市立小郡南小学校 校長 河内啓次</p>
10月	<p>◇オンライン情報交換会（10/6）…学力向上推進リーダー、市町教委指導主事対象</p> <p>○県市町関係主事研修会（10/13）…市町教委指導主事を対象とした所管説明</p> <p>○NITSカリキュラム・マネジメント研修における事例発表 （山口県教育委員会、光市立浅江中学校）</p> <p>○第2回カリキュラム・マネジメント検討会議（10/19）</p> <p>【内容】検討委員による「カリキュラム・マネジメントの手引き」の検討</p> <p>□県教委による学校訪問</p> <p>□県外視察（10/24, 25）…新潟県新潟市立上所小学校、新潟市教育委員会、埼玉県戸田市立新曾中学校、埼玉県戸田市立新曾北小学校、戸田市教育委員会</p>
11月	<p>○文部科学省による美祢市立大嶺中学校での実地調査（11/9）兼 学力向上推進リーダー等交流研修会</p> <p>【内容】①学校の取組説明、②授業参観「総合的な学習の時間」、③協議</p> <p>【指導助言】千葉大学 名誉教授 天笠茂、大阪教育大学 教授 田村知子</p> <p>・オンライン情報交換会（11/10）…学力向上推進リーダー、市町教委指導主事対象</p> <p>○学力向上推進リーダー等交流研修会（11/9）…防府市立松崎小学校</p> <p>【内容】①授業参観、②学校の取組紹介、③県教委による説明「社会に開かれた教育課程の実現に向けて」、④情報交換、</p> <p>【講師】松崎小学校 校長 秋川茂</p> <p>□県教委による学校訪問</p> <p>・学力向上推進リーダーへの取組状況調査…WEB アンケート</p>
12月	<p>○第3回カリキュラム・マネジメント検討会議（12/13）</p> <p>【内容】検討委員による「カリキュラム・マネジメントの手引き」の検討</p> <p>○社会に開かれた教育課程の実現のためのカリキュラム・マネジメントと学校・地域連携カリキュラムのオンライン研修会（12/23）</p> <p>【内容】①所管説明、②座談「社会に開かれた教育課程の実現に向けて～『学校・地域連携カリキュラム』を活用したカリキュラム・マネジメント」（山口市立小郡南小学校 校長 河内啓次、山口市立小郡中学校 教頭 野上慎二郎、山口市立小郡南小学校地域学校協働活動推進員 益田徳子）、③グループ協議</p> <p>【指導助言】文科省初等中等教育局教育課程課教育企画室長 石田有記</p> <p>□「カリキュラム・マネジメントの手引き」の契約</p>

1月	<p>○カリキュラム・マネジメントビギナーズ研修会（1/5）</p> <p>【内容】①所管説明、②座談「社会に開かれた教育課程の実現に向けて」（宇部市立宇部小学校 教頭 萱野貴光、宇部市立上宇部中学校 学力向上推進リーダー 田中由起枝）、③グループ協議「『学校・地域連携カリキュラム』で学校のこだわりやうりを見出す」</p> <p>【指導助言】山口大学教育学部 教授 静屋智</p>
2月	<p>○やまぐち教育フォーラムでの「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」発表（2/10）（義務教育課による「手引き」の説明、周南市立德山小学校 学力向上推進リーダー 福江由美、光市立浅江中学校 学力向上推進リーダー 林貴之）</p> <p>○文部科学省事業成果報告会（2/16）第1部、第2部における取組発表</p> <p>◇学力向上推進リーダー等交流研修会（2/20）…下関市立山の田中学校</p> <p>【内容】①授業参観、②県教委による説明「社会に開かれた教育課程の実現に向けて」、③学校の取組説明、④情報交換</p> <p>【講話】山の田中学校 校長 波多野敏郎</p> <p>◇県内公立小・中学校に対する教育課程編成・実施状況調査の実施…学校質問紙</p>
3月	<p>・学力向上推進リーダーからの報告（取組の振り返り、成果と課題の洗い出し）</p> <p>□「カリキュラム・マネジメントの手引き」の完成</p> <p>○合同研修会における県教育委員会指導主事と市町教育委員会学校担当指導主事との情報共有</p>

2. 調査研究の内容

（1）岩国市立岩国小学校

<p>（1） 研究テーマ</p> <p><input type="checkbox"/> a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究</p> <p><input type="checkbox"/> c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究</p> <p>（2） 調査研究の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の基盤となる資質・能力を明確にし、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営 ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい学習の基盤となる資質・能力の明確化 ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするためのユニット型研修 ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするための小中合同研修会の企画・運営 ・学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた日常の授業改善 <p>（3） 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策</p> <p>○小中合同でコミュニケーション力の育成に向けた研修を行っており、小中合同授業研究や互見授業、相互乗り入れ授業、ユニット型研修を通して研修を深めることができた。</p>

- 毎学期、学校・地域連携カリキュラムや学力向上プランを基に、成果と課題を協議し、検証改善サイクルの確立を図ることができた。
- 小中の教職員が一堂に会し、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力について共有し、学力向上等に向けた熟議を行った。
- 学校運営協議会の熟議への児童参加を促していきたい。
- 小中一貫・コミスク等の推進を持続可能な取組にしていくために、教職員の業務改善にも繋がる取組をしていきたい。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	校内研修等の企画・運営（学力向上プランの作成） 学校・地域連携カリキュラムの確認（昨年度の反省・今年度の取組）
5月	小中部会別協議会（地域教育部会・心と行動部会・学力向上部会）
6月	学校運営協議会の企画・運営、小中合同授業研究会
7月	校内研修等の企画・運営（学校・地域連携カリキュラム・学力向上プランに基づく成果と課題の協議）
8月	小中合同研修会（9年間で育成したい資質・能力等の熟議） 学校・地域連携カリキュラムの見直し（実施状況・今後の取組）
10月	学校運営協議会の企画・運営
11月	小中合同授業研究会
12月	校内研修等の企画・運営（学校・地域連携カリキュラム・学力向上プランに基づく成果と課題の協議）
1月	小中合同授業研究会
2月	学校運営協議会の企画・運営 校内研修等の企画・運営（学校・地域連携カリキュラム・学力向上プランに基づく成果と課題の協議）
3月	学校・地域連携カリキュラム見直し（成果と課題）

(2) 岩国市立麻里布中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・総合的な学習の時間を核として地域の課題解決をめざしたカリキュラム・デザイン
- ・地域の資源を把握し、その良さや学校のこだわりを明確にして示す学校・地域連携カリキュラムの見直し・評価
- ・学校運営に関する熟議に生徒が参加するための仕組みづくり
- ・中学校区でめざす児童生徒像の実現に向けた授業改善を踏まえた小中合同研修会の企画・運営
- ・教科横断的な視点からの教育課程の編成に向けた校内研修の充実

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 毎週月曜日に行うあいさつ運動においては、地域と学校が情報共有や意見交流を行うことができおり、学校の運営について共通理解するよい場となっている。

- 小中合同研修会の3つの部会のうち、ふるさと学習部では、学校・地域連携カリキュラムの見直しを通して、街づくりの視点をより色濃くカリキュラムに取り入れることができた。駅前再開発に関わるなど、地域資源の活用の幅を広げることができた。
- 学校運営協議会においては、生徒会執行部が生徒会の運営方針を説明して助言を受けたり、代表生徒と委員が今後の地域について意見交換を行ったりするなど、生徒を含めた熟議を実施することができた。
- 何のための教育活動を行っているのか見失わないように、学校・地域連携カリキュラムの評価や整理・見直しをさらに充実させていく必要がある。
- 小中一貫教育が形骸化しないように、無理のない日常的な関わりを充実させていき、小中学校すべての教職員が学校教育目標達成のための取組を共通理解できる体制をさらに充実させたい。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
5月	令和4年度ICTを活用した授業力向上研修会及びカリキュラム・マネジメント研修会(5/19) 学校運営協議会(5/24)
7月	山口県小・中学校管理職リーダーシップアップ研修会(7/8)
8月	小中合同学校運営協議会(8/1)
9月	令和4年度カリキュラム・マネジメント検討会議(9/13)
11月	岩国市小中一貫教育に係る確かな学力推進研究事業研究発表会
12月	小中合同学校運営協議会(12/16) 社会に開かれた教育課程の実現のためのカリキュラム・マネジメントと学校・地域連携カリキュラムのオンライン研修会(12/23)
1月	カリキュラム・マネジメントビギナーズ研修会(1/5)
2月	学校運営協議会(2/3)

(3) 柳井市立柳井小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等(目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など)の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にし、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい学習の基盤となる資質・能力の明確化
- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 全国学力・学習状況調査や10月の学力定着状況確認問題の調査結果を基にして課題を把

握し、学校だけでなく市内で解決すべき課題を共有、解決に向けた取組を協議した。

- 学校運営協議会に児童が参加し、学力についての熟議を行うことで、児童の当事者意識が高まるとともに、参加者がそれぞれの立場でできることを考え、実行に移すことができた。
- 毎時間すべての教科で授業の振り返りを実施するように取り組んだ。その結果、児童の振り返りを基に、授業改善に努めることができた。
- コロナ禍で、中学校区の教職員が一堂に会し、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力について共有し、学力向上に向けた熟議を行うことができなかった。
- カリキュラム・マネジメントの推進に関して、教職員の意識を変えるためには、業務改善に繋がる取組である実感が伴わないと、持続可能な取組にならない。
- 地域素材を生かし、教科等横断的な視点から学校・地域連携カリキュラムを見直す必要がある。また、総合的な学習の時間の内容の見直しについても、学習を活性化させるために継続的に行っていく必要がある。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
5月	学校運営協議会（児童参加、テーマ：「学力」について）
7月	校内研修（全学調の結果分析と2学期に向けた対策）
8月	校内研修（カリキュラム・マネジメントの視点をもとに業務改善についての熟議）
9月	学校運営協議会（全学調の結果をもとにした熟議） 柳井市学力向上研究集会（「振り返り」の取組について）
11月	校内研修（確認問題の結果分析と今後の取組）
12月	学校運営協議会（学校・地域連携カリキュラムについての熟議）
2月	柳井市学力向上研究集会（来年度に向けた取組） 学校運営協議会（来年度の学校経営ビジョンについて検討）

(4) 柳井市立柳井中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にし、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい学習の基盤となる資質・能力の明確化
- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするためのユニット型研修
- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 全国学力・学習状況調査や山口県学力定着状況確認問題の調査結果を基に課題を把握し中学校だけではなく市内小中学校で解決すべき課題を共有し、解決に向けた取組を協議すると共に、定期的に検証している。
- 「めざす児童生徒像」を、生徒自身が意識して学校活動や地域活動ができるよう、生徒会執行部から全校生徒に学校・地域連携カリキュラムについてプレゼンテーションすることができた。
- 3学期から、新生徒会が活動を始めるにあたり、育てたい資質・能力を意識した生徒会活動案について、柳井中学校区拡大学校運営協議会（7小学校1中学校長参加）で生徒も参加して熟議を行った。
- コロナ禍で、様々な制限を受けながらも地域連携活動が行われるようになってきた。今後、単純にコロナ以前に戻すのではなく地域とともにカリキュラム・マネジメントを進める必要がある。
- グランドデザインを来年度に向けて見直している。全教員がビジョンを共有し、総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントに活用できるようにしたい。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	学校運営協議会の企画・運営（学校・地域連携カリキュラムについて確認）
5月	ユニット型研修での指導助言
6月	ユニット型研修での指導助言 校内研修【柳井市克己堂研修会】の企画・運営
7月	ユニット型研修での指導助言
8月	校内研修の企画・運営（学力調査結果分析と今後の対策）
9月	ユニット型研修での指導助言 柳井市学力向上研究集会への参加（「振り返り」の取り組みについて）
10月	ユニット型研修での指導助言 学校運営協議会の企画・運営（学力調査・学校アンケートからの検証）
11月	ユニット型研修での指導助言 校内研修【柳井市克己堂研修会】の企画・運営
1月	ユニット型研修での指導助言 校内研修【柳井市克己堂研修会】の企画・運営 学校運営協議会の企画・運営（生徒参加：熟議）
2月	柳井市学力向上研究集会への参加（振り返りを核とする取り組みについて）
3月	学校運営協議会の企画・運営 （次年度に向けて学校・地域連携カリキュラム見直し）

(5) 田布施町立東田布施小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・ 中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童像等の実現に向け、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための小中合同研修会や熟議の企画・運営
- ・ 熟議に児童・生徒が参加するための仕組みづくり
- ・ 学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化
- ・ 地域課題を解決するための総合的な学習の時間を核とした学校・地域連携カリキュラムの作成
- ・ 学校教育目標等の実現に向けた日常的な授業改善や研修

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 地域連携担当の役割を明確にし、教職員全員で学校・地域連携カリキュラムの見直しができるように校内研修・検討会議を主導できる人材育成に取り組んだ。
- カリキュラム・マネジメントについて教職員に周知した。また、グランドデザインの試案を作成し、本校の課題や今後中学校区の各学校と連携してどのような作業が必要になるか、具体的な完成への筋道を共通理解することができた。
- 学校・地域連携カリキュラムの核となる総合的な学習の時間について年間指導計画を見直し、地域課題を解決できるような内容や児童が地域に向けて学習の成果を発信できるような内容に修正した。
- 6年生が熟議に参加し、学校をよりよくするための提案をすることができた。
- 中学校区におけるグランドデザイン・9年間の単元配列表については教育委員会などの協力も得て、作成の見通しが出来つつあるものの完成には至っていない。今後、組織的・計画的に取り組んでいきたい。
- 児童の熟議の参加の仕方や、そこにつながる学習活動のあり方については今後も検討を重ねていきたい。
- 現状、小中連携に課題がある。小中連携の具体的な方法を検討し、地域貢献活動を学校・地域連携カリキュラムに位置付けられるようにしたい。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	職員研修（学校・地域連携カリキュラムについて） 職員研修（各学年で総合的な学習の時間の内容確認と計画）
5月	第一回学校運営協議会（学校運営方針についての熟議）
8月	職員研修（カリキュラム・マネジメントについて）
9月	第2回学校運営協議会（6年生の熟議参加）
2月	職員研修（学校・地域連携カリキュラムの見直し） 職員研修（総合的な学習の時間の反省と年間指導計画の見直し）

(6) 平生町立平生中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・ 中学校区9年間で児童生徒に身に付けさせたい資質・能力の育成に向けたカリキュラムの作成
- ・ 9年間の学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化
- ・ 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を軸とする授業改善に向けた地域資源の活用
- ・ 熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- これまで町内の各学校（1中2小）で独自に作成されていた学校・地域連携カリキュラムを、町教育委員会事務局も交えて行った研修会へ持ち寄り、中学校区9年間の学校・地域連携カリキュラム（試案）の作成を行った。1つにまとめることで、各学校で実施されている活動を互いに確認できるとともに、9年間を見通したときに小学校と中学校で行っている活動の重複や、目的の明確化等の改善すべき点などを見つけることができた。次年度以降の協議に向けて、この学校・地域連携カリキュラム（試案）が土台となるものと考えている。
- 今後、学校運営協議会に生徒を交えた熟議を充実させていくにあたって、今年度は生徒総会で話し合った校則に関する内容や結果について、生徒と教職員、学校運営協議会委員で協議を行った。校則を話題にすることで、お互いに世代間の考え方や価値観の違いに触れ、充実した意見交換の場になった。グループの協議内容を生徒が発表したことについて、学校運営協議会委員からは、生徒たちによるまとめ方がとても的確で素晴らしいなど賞賛の声が上がった。
- 生徒が主体となって地域課題の解決に向けて行動する資質・能力を育てるために、今年度の生徒会リーダー研修会において、学校運営協議会会長から生徒たちに対し、「中学生に期待すること」として講話をいただく機会を設けた。現在の各種行事や活動における地域と中学校のつながり、リーダーとして期待することなどについて地域の思いを代表して語る姿に、生徒たちは、地域に対する感謝の念をもつとともに、今後の自己の在り方や活動のもち方について深く考えることができた。
- 9年間の学校・地域連携カリキュラムを活用し、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化が必要だと考える。
- 中学校区9年間の学校・地域連携カリキュラム（試案）を基に、それぞれの活動において各教科等で身に付けさせたい資質・能力を明確にするための見直し及び再構築の必要性がある。
- 中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を地域全体での共有するために、小中合同研修会への各学校の学校運営協議会委員や児童生徒の参加をめざす。

- 育成したい資質・能力やめざす子ども像を念頭に置き、9年間の学校・地域連携カリキュラムを活用した諸活動におけるPDCAサイクルの確立をめざす。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	第1回学校運営協議会
5月	研修職員会
6月	第2回学校運営協議会
7月	平生町地域協育ネット運営協議会 平生町小中合同学校運営協議会 学校評価アンケート
8月	第3回学校運営協議会
9月	第4回学校運営協議会
10月	研修職員会
11月	第5回学校運営協議会
12月	平生町教頭会研修会 学校評価アンケート
1月	研修職員会
2月	第6回学校運営協議会 平生町地域協育ネット運営協議会 平生町小中合同学校運営協議会
3月	研修職員会

(7) 下松市立公集小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・ 児童参画を促進したコミュニティ・スクールの取組推進
- ・ 地域課題・学校課題解決に向けたコミュニティ・スクールの取組
- ・ 中学校区におけるランドデザインの再構築
- ・ 人との関わりを中心とした学校・地域連携カリキュラムの再構築

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 高学年児童を対象にコミュニティ・スクールについての説明を校長が行った。よりよい学校にしていくための活動を委員会ごとに考え、臨時学校運営協議会の場でプレゼンを6年生が行った。子どもの参画意識の高まりと共に、それを指導する教職員の参画意識を高めることにも繋がった。
- 初任者2名の公開授業研修会を学校運営協議会委員参加で実施した。教職員の立場とは異なる視点からの気づきにより、研修を深めることができた。
- 児童参加型の熟議を実施し、学校でめざす子どもの姿や身に付けさせたい力について協議を行った。その内容を中学校区で持ち寄り、末武中学校区小中連携教育ランドデザインを作成することができた。

○6年生が下松市の市長さんや教育長さん等をお招きし、下松市の未来について子ども達に講話をいただいたり、座談会を実施したりした。その学びを生かして2学期の総合的な学習の時間を用いて「下松Eまる大作戦～未来への扉～」に取り組んだ。未来の下松市を担う子ども達自身が、地域について考え、地域に愛着を抱くきっかけとなった。また、人との関わりの中で学ぶことの価値について体験的に学ぶことができた。

●教職員の考える学校課題と子ども達の考える学校課題、地域から見える学校課題など解決を目指す課題が多岐に渡っている。また、課題解決に向けた取組も多様となってくるため、焦点化した上でより具体的・実践的な動きにしていく必要がある。

●作成した小中連携教育グランドデザインを受け、単元構成を見直し、めざす児童像や学校教育目標を具現化・達成するための取組を明らかにしていくことが必要である。

●下学年や地域・保護者への啓蒙活動など、取組を広げていくことが課題となる。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	第1回学校運営協議会（協議会委員への取組説明）
5月	高学年児童に向けたCS説明会
6月	臨時学校運営協議会（6年生による委員会活動取組プレゼン）
7月	第2回学校運営協議会（6年生児童有志参加による熟議）
9月	6年生児童と下松市長さんによる座談会
10月	第3回学校運営協議会（公開授業研究会 ユニット型研修）
11月	第4回学校運営協議会（6年生児童全員によるプレゼン「下松Eまる大作戦～未来への扉～」）
12月	末武中学校区小中学校区運営協議会連絡会議
1月	末武中学校区教頭会（末武中学校区小中連携教育グランドデザインの作成）
2月	第5回学校運営協議会（6年生児童による令和5年度チャレンジ目標の説明 等）
3月	末武中学校区小中連携教育グランドデザイン完成（予定）

(8) 下松市立下松中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・社会に開かれた教育課程の実現のための校内研修
- ・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童・生徒像等の実現に向けた小中合同研修会の企画・運営
- ・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童・生徒像等の実現に向けた中学校区内管理職会議
- ・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童・生徒像等の実現に向けた学校・地域連携カリキュラムを共有するための熟議の企画・運営

- ・熟議に児童・生徒が参加するための仕組みづくり
- ※生徒の意見を具現化するための企画 くだコン夏祭り・不登校対策の企画・運営
- ・学校・地域連携カリキュラムにおける育成したい資質・能力の明確化
- ・学校教育目標の実現に向けた日常の授業改善・ユニット研修・3部会研修

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 中学校区3校の教職員・保護者、地域の方が参加する3校合同研修会や学校運営協議会で昨年度からまとめている中学校区内で育てたい資質・能力の重点化を検討・改訂し見直した。
- 専門委員会が企画した地域活性化プロジェクトが軌道に乗り、各委員会が、よりよい生徒・学校・地域になるように企画・運営に取り組んでいる。さらに、今年度は生徒が企画・運営し、多くの生徒・地域ボランティアが参加した「くだコン夏祭り」やコミスクの仕組みを活用して現代的な諸課題に対応するための不登校対策の企画を立ち上げた。
- 当事者意識を高め、学校教育目標や課題に対応する組織力・連携力の向上を図りたい。
- 総合的な学習を3年間の軸のある探求学習として位置付けて、生徒の育てたい資質・能力を向上させたい。
- コロナ禍で制限されていた小中連携を効果的に再開し、カリキュラムの中に明記し実践していきたい。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	学校・地域連携カリキュラムの確認・協働認識 中学校区内3校合同研修会
6月	3部会研修会（ユニット研修）
8月	中学校区内3校合同研修会
9月	第2回学校運営協議会（生徒参加）
10月	中教研授業研究会（ユニット研修）
12月	第3回学校運営協議会
2月	3部会研修会（ユニット研修） 第4回学校運営協議会
3月	学校・地域連携カリキュラムの見直し・改訂 第5回学校運営協議会（生徒参加）

(9) 光市立浅江小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・生活・総合を核とした「カリマネシート」の作成
（単元のねらいと学校教育目標とのつながり、生活課題と探究課題の明確化、探究的な学習過程、他教科等の横断的視点・地域素材活用の視点・幼保小中連携の視点）

- ・「カリマネシート」を基にした「学校・地域連携カリキュラム」のPDC Aサイクルづくり
- ・「カリマネシート」を活用した家庭・地域・学校の参画意識や当事者意識の強化
- ・市内全体への「カリマネシート」の普及と共有

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 「カリマネシート」の目的や整理・共有する意義を明確化することができた。
- 「学校・地域連携カリキュラム」を教員一人ひとりが自分事として具現化し、PDC Aサイクルを回すことができた。
- 「カリマネシート」を活用して各学年主任や学級担任が校外コーディネーターや地域人材と打合せしながらカリキュラム・デザインを行うことができた。
- 「学校・地域連携カリキュラム」を具現化していくための「カリマネシート」づくりを市内小学校の校内研修に位置付けてもらうことで、教員のカリキュラム・マネジメント意識を高めることができた。
- 今年度は「カリマネシート」づくりを普及させることが第一の目的。今後は、その内容吟味の視点として地域課題や現代的な諸課題を解決する生活・総合のカリキュラム・デザインへと高めていく必要がある。
- 各学年主任や学級担任と校外コーディネーターや地域人材をつなぐツールとして「カリマネシート」を活用した。今後は家庭・地域と学校をつなぐツールとして活用したり、家庭・地域・学校による熟議において協働してPDC Aサイクルを回すツールとして活用したりするなど、家庭・地域・学校がより一体となって取り組むためのツールとして活用の幅を広げていきたい。
- 「カリマネシート」づくりは小学校による試行で成果が得られたので、今後は小中一貫教育を推進していくツールとして活用したい。
- 市内小中学校の教員共有フォルダで、この「カリマネシート」を共有していくことで、各小中学校の参考にしたり、協働で作成したりできるものとしていきたい。

光市立渡江小学校 第6学年 総合「カリマネシート」(6年 指導者:井口 康江)	
1 単元名 総合「ハートフルな町づくり～活カのある町～」	
<本単元のねらい(3つの「履修・修カシ」)> ※渡江地区の地域活性化の取組とそれを支える組織や人の思いに鑑み、「知識及び技能」 ※地域活性化の取組と、課題解決に向けた力を工夫して伝えることができる【読書力・批判力・表現力】 ※地域の一員として、自分ができることを決める【学びに活かす力・人間性】	<学校教育目標> 人材発掘を基盤とした豊かな心と社会的責任を担った未来に活躍できる児童を養成し、個性を伸ばし、自ら進んで学ぶことができる【元気づけ、自主性、責任感】の育成
2 実施時期・総時数 10月～12月 17時間	
3 探究課題	※渡江地区の町づくり、地域活性化のために取り組んでいる組織や人財
4 単元計画	
前	主な学習活動・学習内容
1	1 学習準備をつくらう ※光市の歴史・定住動画を視聴し、「活カのある町」について話し合う(1h) ※活カのある町にするために、取り組んでいる人や組織を話し合う(1h) ※光市の課題 ※地域活性化に取り組んでいる組織や人財
2	2 活カのある町にするための取組を調べよう ※クラスごとに4つの組織や人財を調べよう(2h) ※調べたこと(きっかけ・メンバー・やりがい・思い)を話し合い・整理しながら話し合う(3h) ※調べたことを他のクラスに伝える(1h) ※地域活性化に取り組んでいる人財の思いや願い ※地域活性化の課題
3	3 地域活性化の課題に即して、自分なりの考えを練りながら提案する ※自分たちの提案をまとめ、表す(3h) ※提案に対する気持ちをもち、表す(1h) ※課題解決のアイデア ※地域活性化のためのアイデア ※自分たちの提案の考えを十分発表、改善
あ	他教科等との横断的視点 地域人材の活用・連携視点 ※光市の歴史 ※SDG の授業 ※未来に親しい光市の魅力 ※コロナ 豊少年部 ※児童委員の「児童委員まつり」 ※渡江地区の歴史 田村さん「ランドアート」 ※地域の活性化の取組「絆のし」(渡江中) ※地域活性化の取組「リーダー 田村さん」 ※地域活性化の取組「ラッピングホスト」
あ	※国語【話す・聞く】 資料を使って効果的効果的に話ししよう 「あ、私は、はやく!」

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	第1回小中一貫あさなえ学園運営協議会(「学校・地域連携カリキュラム」の協議)
5月	「学校・地域連携カリキュラム」を具現化する「カリマネシート」づくり研修会
6月	「カリマネシート」を活用した校外コーディネーターとの打合せ・実践(試行)
7月	光市小学校教育研修会・生活・総合部会(カリマネシートづくりに関する演習)
8月	第2回小中一貫あさなえ学園運営協議会(あさなえネット熟議『未来のあさなえ学園』)
9～12月	「カリマネシート」を活用した校外コーディネーターとの打合せ・実践
1月	「カリマネシート」を評価・改善する見直し視点に関する研修会
2月	第3回小中一貫あさなえ学園運営協議会(小中一貫教育の在り方に関する協議)
3月	生活・総合「カリマネシート」の評価・改善

(10) 光市立浅江中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・「15歳の浅江っ子像」（めざす子ども像）を、浅江小と連携して9年間で前期・中期・後期に分けて具体的かつ端的な表現で設定
- ・学校教育目標の実現のため、教員の専門性を生かした「つながる授業」の研究・実施
- ・「熟議」を生かした学校運営の実現

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 「あさなえ熟議」や「企画推進委員会（あさなえ熟議を踏まえた熟議）」といった、当事者である生徒の考えや意識が見える機会を生かし、生徒の心身の成長過程に応じた具体的な浅江っ子像を設定できた。
- 教職員が「発言の連鎖」を意識した授業づくりを心がけ、その時間を記録し、授業評価の指標として蓄積を行っている。また、生徒総会で「つながる授業」（今年度は国語と保健体育）をテーマに侃々諤々の協議を生徒の企画で行った。教職員と生徒が協働して授業づくりや授業の質を高める取組に至った。
- 研修における教科部会で「つながる授業の実施」に向けて具体的にどのような方法があるかを協議できた。
- 「めざす子ども像」に比べ「学校教育目標」を意識した取組がやや弱い。生徒会活動や地域での活動だけでなく、授業改善に一層注力することで、生徒・教職員・家庭・地域が一体となった取組に至り、「生徒と教職員のウェルビーイング」を高めたい。
- 学校運営協議会等、三層構造を最大限に生かして、持続可能な取組を見据えた地域との連携や協働活動を更に進めて教職員の業務改善に繋げたい。
- 昨年度から継続して行ったユニットに分かれて行う研修（授業研究）は、手軽に多くの回数を実施できるよさがあるものの、互見授業に教員の温度差があるのは否めない。今年度後期に国語科で行った「教科部会」での事前指導案検討から教職員全員参加型の公開授業、研修実施後の授業づくり（授業者と学力向上推進リーダー）をセットとした研修や地域の力を借りた研究授業を進めたい。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	教職員プロジェクト部会・学校運営協議会
5月	・2ユニットに分かれての研究授業
6月	企画推進委員会 授業のための協議（研修）
7月	学校運営協議会
8月	あさなえネット熟議・企画推進委員会
12月	企画推進委員会 「つながる授業研修」（理科）
1月	学校運営協議会
2月	「つながる授業研修」（国語）
3月	企画推進委員会・学校運営協議会

(11) 周南市立徳山小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にし、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営、小中合同学校運営協議会の企画・運営
- ・教科等横断的な視点からの教育課程の編成に向けた校内研修・学校運営協議会の企画・運営
- ・PDCAサイクルに沿ったカリキュラム・マネジメントの推進
- ・地域素材や地域人材を活用した総合的な学習の時間・生活科
・自立活動を核としたカリキュラムの再構築
- ・学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた日常の授業改善
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり



昨年度から引き継いだカリキュラム表

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 「徳山小学校開校150周年」を題材に、全教職員でカリキュラム・マネジメントを推進し、学校・地域の伝統をつなぐ学習の充実、授業の質の向上を図ることができた。
- カリマネミーティング(校内研修)、7月下旬のカリマネ熟議、2学期のユニット型研修等、カリキュラム・マネジメントを組織的・計画的に進める年間スケジュールが確立・定着した。
- カリマネミーティングでは、昨年度から引き継いだカリキュラム表を見ながら、子どもの「今」の実態と照らし合わせ、教科等の配列や内容を検討する作業を行った。
- カリマネ熟議を通して、学校運営協議会委員と教職員の日常的な連携が進んだ。カリマネ熟議では、全教職員、



カリマネミーティングの様子

学校運営協議会委員が参加し、1学期の教育活動を振り返りつつ、2学期以降の授業について年間カリキュラム表を基に熟議を行った。委員からたくさんの地域の人、もの、ことに関する情報提供や授業へのアイデアを基に、2学期からの授業の計画を立てた。



カリマネ熟議の様子

- 小中合同学校運営協議会に児童生徒が参加したことで、学校・地域それぞれの当事者意識の醸成、熟議の活性化が図れた。
- 小中連携の活性化により、学校・地域連携カリキュラムのめざす児童像、付きたい力等の見直し、再構築、共有が進んだ。また、9年間の単元配列表の見直しの段階にも入っている。今後、全教職員が共有・活用できるよう学校評価とのリンク等を進めていく。
- 動き始めた小中連携の取組、学校運営協議会熟議への児童生徒の参加、委員との連携の在り方をさらに進めていきたい。
- 学校・地域連携カリキュラムのめざす児童像、付きたい力の具現化を進めていきたい。
- カリキュラム・オーバーロードが解消できるよう、取組の仕方等をさらに工夫したい。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・カリマネミーティング 児童の実態把握・課題・ビジョンの共有（全体、各学年部） 前年度のカリキュラム表をもとに計画立案（各学年部） ・学校運営協議会（学校・地域のよさ、課題、ビジョンの共有等）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・カリマネミーティング（4月と同様の協議題）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・カリマネミーティング（4月と同様の協議題） ・小中合同学校運営協議会（地域・学校のよさ、課題、ビジョンの共有等）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート ・カリマネ熟議（全教職員、学校運営協議会委員参加の熟議） 児童のよさ、育みたい資質・能力、課題の共有、地域の方とカリキュラムの見直し、人的、物的資源の発掘、情報収集、学年部で教材研究 等
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの再構築、学年部での教材研究
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一授業、ユニット型研修会：授業評価、カリキュラム評価
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一授業、ユニット型研修会：授業評価、カリキュラム評価
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一授業、ユニット型研修会：授業評価、カリキュラム評価 ・小中合同学校運営協議会（学校・地域連携カリキュラムの見直し・再構築） ・学校運営協議会（学校評価等を基にした課題の共有と改善方策）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一授業、ユニット型研修会：授業評価、カリキュラム評価 ・学校評価アンケート
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の実践 ・実践の振り返り ・年間カリキュラムの整理・引継
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の実践 ・実践の振り返り ・年間カリキュラムの整理・引継 ・学校運営協議会（学校評価等を基にした課題の共有と改善方策、来年度の展望）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の実践 ・実践の振り返り ・小中合同学校運営協議会（学校・地域連携カリキュラムの見直し・再構築）

(12) 周南市立周陽中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化
- ・社会に開かれた教育課程の実現のためのミニ研修
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するためのカリキュラム・マネジメント連絡会（教頭連携）
- ・学校教育目標等の実現に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 8月に開催した小中合同学校運営協議会において、本校区では初めて生徒が参画した形での熟議を行い、有意義な話し合いができた。
- 計3回のユニット型研修の実施により、ICTを活用した授業づくりについて充実した研修を行うことができた。
- 家庭科の調理実習の授業で地域の方の協力を得たほか、第1学年の「地域を考える」という単元では地域の方が参画し、生徒たちとともに地域の現状と今後の地域の活性化のためにどのようなことができるかを話し合った。
- 徳山商工高等学校の生徒によるマナー講座（キャリア教育）や徳山高等専門学校の教員・学生による地域防災教育など、校区内での縦の繋がりを活用した実践ができた。
- 現行の学校・地域連携カリキュラムを見直し、地域や学校の現状に沿った効果的な実践に繋がるものに改善していきたい。
- 小中の管理職同士の協議の場を増やし、校区内連携の取組を充実させる。特に児童生徒と地域の方が協働できるような活動を考えたい。
- 各教科の授業や総合的な学習の時間で、地域の方と共に考え協議する場を増やしたい。
- 生徒が参画する熟議では、さらにテーマを絞り、具体的な実践に繋がるものにしたい。そのために、生徒会活動との連携を図りたい。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	研修職員会（年間計画の共有・確認）
5月	学校運営協議会（今後のビジョンの説明・共有）
6月	研修職員会（ユニット型研修）

7月	小中連携 PT（プロジェクトチーム）主任会議
8月	小中合同学校運営協議会（生徒参画による PT 別熟議）
9月	研修職員会（ユニット型研修）
11月	学校運営協議会（地域連携の実践に向けた熟議）
1月	研修職員会（ユニット型研修）
2月	小中連携 PT 主任会議 学校運営協議会 小中合同管理職会議
3月	研修職員会（今年度の振り返り、来年度の推進体制の検討）

（13）山口市立湯田小学校

<p>（1） 研究テーマ</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究</p> <p><input type="checkbox"/> b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究</p> <p><input type="checkbox"/> c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究</p> <p>（2） 調査研究の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営 ・コミュニティ・スクールを生かした学校運営 ・学校教育目標等の実現に向けた日常の授業改善 <p>（3） 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策</p> <p>○グランドデザインを見直し、めざす子ども像と教師像の共有を図ることができた。</p> <p>○小中合同の研修会において熟議を行い、めざす子ども像と重点取組の共有を図ることができた。</p> <p>○地域人材を活用し、ゲストティーチャーを入れて、総合的な学習の時間等を活性化することができた。</p> <p>●小中が学校運営協議会の在り方やもち方について、市教委と連携して協議する必要がある。</p> <p>●学校運営協議会への児童の参加の機会を設定する必要がある。</p>

（4）実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	第1回学校運営協議会の企画・運営
7月	第2回学校運営協議会の企画・運営
8月	小中合同研修会 9年間で育成したい資質や能力等の熟議
9月	校内研修等での企画や指導助言
12月	校内研修等での企画や指導助言
2月	第3回学校運営協議会の企画・運営

(14) 山口市立平川中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・学校・地域連携カリキュラムの改訂
- ・学習の基盤となる資質・能力に着目した各教科における小中一貫カリキュラムの作成
- ・学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた学校運営協議会委員と中学生による熟議の活用
- ・学習の基盤となる資質・能力の育成に着目した授業改善
- ・地域連携の推進による学習の基盤となる資質・能力の育成

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 学校・地域連携カリキュラムの単元配列表について、言語能力の育成に関する具体的な内容を盛り込んだものを作成した。
- 各教科において、学習内容と言語能力を系統的に整理した小中一貫カリキュラムを作成した。
- 学校運営協議会において、中学生が参加するかたちでグランドデザインの実現に向けた熟議を実施することで、学習の基盤となる資質・能力の育成に関する理解を深めるとともに、新たな取組に向けた準備を進めることができた。
- めあてや振り返りを大切にした授業づくりと学習の基盤となる資質・能力との関連性を明らかにすることができた。
- 新型コロナウイルス感染防止の手立てを講じつつ積極的に地域連携を推進した。
- 学校・地域連携カリキュラムについて、学習の基盤となる資質・能力に関する小中の系統性をより確かなものにする。
- 作成した各教科の小中一貫カリキュラムに基づく授業を着実に実践し、その成果をもとに改訂を進める。
- 学校運営協議会委員及び児童生徒がより参加しやすい熟議とするための、実施日時や方法を検討する。
- 授業におけるめあてや振り返りの質を向上させる。
- 地域連携を学習の基盤となる資質・能力の育成により効果的につなげるための方策を検討し実施する。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	平川小中の管理職による小中連携推進会議※以降毎月1回実施 授業づくりに関するミニ研修会※以降随時実施
6月	第1回学校運営協議会（兼教育ネット推進協議会） 第1回小中連携主任会議
7月	互見授業※以降随時実施

8月	平川小中合同研修会（教科部会）
10月	校内研修会において授業改善に関する講義を実施
11月	第2回学校運営協議会において中学生が参加した熟議を実施
1月	来年度の各種小中一貫カリキュラム作成に向けた準備 ※2・3月も含む
2月	第3回学校運営協議会（兼教育ネット推進協議会） 第2回小中連携主任会議

（15）防府市立松崎小学校

（1）研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

（2）調査研究の内容

- ・地域に開かれた教育課程の実現に向けて、教職員全体で本校のよさや強みを共有し、子どもたちのために続けていくべき取組について話し合い、実践につなげていく方策について模索していく。

（3）調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 今年度より、学年主任カリマネ研修を、年度初めと年度終わりにもったことで、担当や管理職だけでなく、より多くの目で教育課程全体を見ることができた。この場をもつことで、これまでの経験や各自がもっている情報を共有することができた。そうすることで、各学年主任が年度初めの見通しをもち、カリキュラムの実施方法や時期等を工夫して、より効果的な取組とするための動きを作ることができた。
- 各関係者とのつながり作りや連携のための連絡等について、地域連携担当だけでなく、各主任による主体的な動き出しや働きかけも生まれてきた。場をもつことの効果を感じている。この取組を来年度も引き続き行っていくとともに、夏期休業中の研修を利用して、途中経過について情報共有をする場をもつことで、より効果的なPDCAサイクルを確立し、この取組を活性化していきたい。
- 今後は、担当や管理職、学年主任だけではなく、全教職員が地域や保護者、異校種との連携を視点として子どもたちの学びの機会を見つめ直し、そのよさや留意点などを共有することができるようにしていきたい。また、年度当初に話し合った大まかな計画を職員目に触れるところに掲示し、気が付いた者が加筆修正しながら、計画の進捗状況を全員で意識し、皆で進行管理をしていけるようなマネジメントの工夫をしていきたいと思う。
- 今年度の反省として、年度当初に話し合ったことが実践に結び付かないこともあったので、会議を会議で終わらせないように、上記の方策を実施することで、進捗状況の確認・進行管理を行うことで、具体的に計画し（P）、実践し（D）、振り返り（C）、改善する（A）というマネジメントを行っていきたい。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	第1回学校運営協議会：学校経営基本構想について（校内組織・年間行事予定）
5月	学年主任カリマネ研修会 ・年間計画をもとに、各学年主任が今年度取り組めそうなことについて考え、参加者のこれまでの経験をもとに情報共有をしながら一年間の見通しをもつ。
7月	校内研修「2学期以降の取組について」
8月	第2回学校運営協議会…新型コロナ感染予防の対策のため中止 ・児童による報告「各委員会活動の取組について」 ・熟議「めざす子ども像に近づくために」 5・6年代表児童18名が参加し、「学びグループ」「健康グループ①②」「心グループ」「地域貢献グループ①②」の6グループに分かれ、各グループのファシリテータを若手教員がつとめ、学校運営協議委員・本校教職員・児童による実施の予定であった。
11月	第3回学校運営協議会 ・学力向上について（全国学力学習状況調査結果・朝学の共通取組・CBT体験等） ・綱紀保持・働き方改革について（綱紀保持研修の紹介、働き方改革、超過勤務時間の様子等） ・創立150周年記念事業について
2月	第4回学校運営協議会 ・学校運営報告：後期学校評価アンケート結果より、プロジェクトリーダー（学力向上・生徒指導・体力向上）より、学校地域連携カリキュラムについて（創立150周年を見据えて）、取組評価 ・今年度末に向けての校内行事等：6年生による地域貢献清掃活動、6年生「ぼうれんの森」芝植え、卒業証書授与式 ・来年度年間行事計画について（行事予定）
3月	学年主任カリマネ研修会 ・今年度の取組についての報告、今年度の反省を生かして、来年度に取り組みたいこと・できそうなことについての提案

(16) 防府市立佐波中学校

<p>(1) 研究テーマ</p> <p><input type="checkbox"/> a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究</p> <p><input type="checkbox"/> c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究</p> <p>(2) 調査研究の内容</p> <p>・全国学力学習状況調査や山口県学力定着状況確認問題の結果分析と共有による学校の課題や強みの明確化</p> <p>・全国学力学習状況調査や山口県学力定着状況確認問題の結果公開と課題の共有を通してその解決に向けた方策を講じる熟議の企画・運営</p>

- ・学習の基盤となる資質・能力の育成と教職員の資質向上をめざしたユニット型研修や校内研修会の充実
- ・学習の基盤となる資質・能力の育成における課題を明確化、共有化する小中合同研修会の企画・運営
- ・学習の基盤となる資質・能力の育成をめざす「学び直し」の実施

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 学校教育目標から「あたたかみ・ひたむき」をキーワード化し、教師にも生徒にもイメージしやすくしたことで、授業づくりの視点にもつなげることができた。1年間を通して計画的にユニット型研修を行うことで、「あたたかみ・ひたむき」が感じ取れる授業が増えてきた。
- 月1回の校内研修会を計画的に企画し、様々な視点から研修の機会をもつことで、教職員の意識改革と資質向上につなげることができた。
- 小中合同研修会では「中1ギャップの解消をめざして」というテーマを設定し、生徒のアンケートを活用することで、学習に対する困り感を小中で共有し、具体的な小中連携の方策について話し合うことができた。
- 学校運営協議会において学校評価や全学調の分析結果を公開し、課題を共有することを通して、生徒の学力の課題を家庭や地域の課題として、真剣に捉え、考えてもらうことができた。
- 熟議で生徒や地域からリクエストの上昇した「学び直し」を実施することができた。30名をこえる地域の方の協力を得て、生徒は自分のつまずきを克服するための課題を選び、学習に取り組んだ。
「学び直し」の企画は回を追うごとに工夫・改良を図っており、教職員の人材育成の機会にもなりつつある。また、その取組は地域の方の働きかけによって校区内の小学校へも広がり始めている。
- 生徒自身が自分の強みやつまずきを自覚し、自分に合った学習を選択する力を身に付けられるようにする必要がある。そのために「個に応じた多様な学習課題の提供」「安心して個別の学習に取り組める支持的風土の醸成」「帯学習に取り組むための時間や機会の確保」など、各分掌を巻き込みながら、全校体制で取り組みたい。生徒の学びに対する教師の意識改革をさらに推進していけるように、研修を重ねたい。
- 「学校・地域連携カリキュラム」が機能する仕組みを整える必要がある。「学び直し」をカリキュラムに明確に位置付け、さらなる効果を生み出したい。
- 実際の生徒の姿やその思いを反映した取組が行えるように、学校運営協議会における熟議のもち方をさらに工夫・改善する必要がある。



(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	・職員会議（学校教育目標の共有）・第1回学校運営協議会 ・研修職員会（ユニット型研修テーマ決定・特別支援教育「聞こえ方」）
5月	・研修職員会（特別支援教育「ADHD」）
6月	・研修職員会（ICTの活用）
7月	・全学調、4月確認問題分析
8月	・研修職員会（全学調、4月確認問題分析結果共有） ・三校小中連携研修会 ・第2回学校運営協議会（熟議）
9月	・研修職員会（特別支援教育「見え方」）
10月	・第1回学び直し
11月	・第2回学び直し ・10月確認問題分析（1・2年） ・研修職員会（人権教育）・第3回学校運営協議会
12月	・研修職員会（10月確認問題分析結果共有・道徳教育）
1月	・研修職員会（アンガーマネジメント）
2月	・校内研修会（ユニット型研修報告会・研修部分掌会議）・第4回学校運営協議会
3月	・第3回学び直し（学力に関する課題の共有も含む）

(17) 宇部市立黒石小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にし、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための学力熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい学習の基盤となる資質・能力の明確化
- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするためのユニット型研修
- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするための拡大熟議の企画・運営
- ・学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 学校・地域連携カリキュラムの見直し、めざす子ども像の共有を図ることができた。
- 中学校区での拡大学校運営協議会において、小学校5年生及び中学校2年生の参加も含む約100名による学力熟議を行い、全国学力・学習状況調査に関する中学校区の課題の共有及び課題解決に向けた取組を考えることができた。
- 地域人材を活用、ゲストティーチャーを入れて、総合的な学習の時間等を活性化することができた。

- 配置校において、6年生と学校運営協議会及び地域の方と学力に関する熟議を行うことができた。
 - 配置校及び兼務校において、3学期後半に5年生を対象とした学力に関する熟議を行うことができた。配置校においては、熟議後子ども達から出た案を実践につなぐことができた。また、兼務校においては、参観日とも連動させた実践を行うことができた。
 - 配置校及び兼務校において、学校の教育目標、学力向上を意識した授業づくり、授業改善についてみんなで考えることができた。
 - 2学期末に、黒石中学校区（2小1中）で拡大合同学校運営協議会を行った。協議会において、令和4年度の全国学力・学習状況調査の中で課題が見られる問題について解いてみたり、学力や質問紙から分かった課題について共有したりした。その上で力に関する熟議を行った。テーマは、「苦手な学習をどうやって克服するか？～基礎学力をさらに伸ばしていくために、学校や家庭、地域でこれからどんな学習経験を積む必要があるか～」である。参加者は、3校の各学校運営協議会委員の方々、各学校の教員、そして中学校2年生と、各小学校の5年生総勢と約100名で行った。
- 
- 熟議で出た意見を具体化していくためのよりよい仕組みづくり
 - 学校の教育目標、学力向上を意識した授業改善及び好事例の共有、教職員の意識改革

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	・学校・地域連携カリキュラムの共有
6月	・学校運営協議会 熟議「学校・地域連携カリキュラムを通しためざす児童像について」（知・心・体三部会にて）
7月	・校内研修（学校・地域連携カリキュラムの見直し、学校の課題の共有及び各学年での重点取組事項の決定等） 8月の3校合同学校運営協議会に向けた打ち合わせ（各校教頭にて）
8月	・3校合同学校運営協議会に向けた打ち合わせ（12月に延期）
10月	・地域人材を活用した総合的な学習の時間「人生の先輩に学ぶ～Try to the future～」の実施
11月	・学校運営協議会及び6年生児童との学力に関する熟議 テーマ「自分たちが学校や家庭、地域で何のための、どんな学びをしていくことが必要か？～自分の夢に向かってさらに力を伸ばしていくために、これからどんな経験を積む必要があるか～」 ・3校合同学校運営協議会に向けた打ち合わせ（各校教頭にて）
12月	・3校合同学校運営協議会に向けた打ち合わせ（会場校中学校教職員と教頭にて） ・3校合同学校運営協議会における学力熟議 テーマ「苦手な学習をどうやって克服するか？～基礎学力をさらに伸ばしていくために、学校や家庭、地域でこれからどんな学習経験を積む必要があるか～」

1月	・中学校区コミスクだよりにて情報共有
2月	・5年生における学力熟議（配置校及び兼務校） テーマ「みんながすてきな6年生になるために、みんなで学習について取り組んでいくことを決めよう」
3月	熟議において決定された計画の実践

(18) 宇部市立上宇部中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・生徒を主役にした新しい時代の学校運営協議会のあり方を探る
～生徒が学校評価アンケートを意識して取り組むPDCAの循環～



学校評価アンケートから課題を探り、改善に向けて具体策を練る。

学習支援部会で具体的な取組を提案し、委員の方々にアイデアをいただく。

縦割り学習会『すたはぴ』を実施

『すたはぴ』参加者へアンケートを実施



第2回学校運営協議会で進捗状況を報告

各部会での取組を報告し、さらにアイデアをいただく。

地域の方々の提案を具体的な実践につなげる。

第3回学校運営協議会で1年間の取組を振り返る。

- ・校内研修で全教職員が実践するカリキュラム・マネジメント
～『地域の人・もの・こと』を教科の学びに生かす学校・地域連携カリキュラムの創造と実践～。学校・地域連携カリキュラムを活用した特色ある教育活動を推進することで学びの質向上をめざす。



宇部市とIT企業やNPO団体などと連携して実施した本授業。身近な地域の様々な災害リスクについて学びました。

・地域行事への参加から参画へ

地域貢献活動のひとつとして、地域行事に参画することに挑戦している。例えば、地域の夏祭りにおいて、ボランティアの生徒たちが実行委員会に出席し、地域の方々と一緒に夏祭りの運営について考え、自分たちの取組についての考えを述べた。その上で、上宇部中学校のブースを担当することになった。地域の実行委員会に中学生が参加することそのものが地域に活力を与えている。



『小学生を楽しませる』というコンセプトの元、射的とスライムづくりを実施



『上宇部 花火のつどい』今年度は上宇部小の6年生もスタッフとして参画。



『琴芝ふれあいまつり』多くの2年生が参画。バトンが繋がっていく。

・児童生徒の想いが繋がる校種間連携



宇部高生との合同清掃活動。両校生徒会の想いが地域も巻き込んで実現!



小中合同あいさつ運動 この日は母校に寄り、あいさつ運動をして登校。



ボランティアの宇部高生によるサマースクール。積極的に教えてくれます。

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 生徒が学校運営協議会に出席し、自分たちのプロジェクトについて提案し、地域の方々と熟議を行うというスタイルが定着した。委員の方々も、子どもが目の前で自分たちの思いを語る姿を目の当たりにすると、より真剣に協議に臨み、建設的な意見を出しやすくなるという効果が見られた。また、今年度から、ミニ熟議への保護者の参画を始めたが、学校運営に生徒が参画することや、生徒の主体性が大幅に伸びることについて肯定的な意見をいただいた。
- 今年度、学習支援部会の取組として、先輩が後輩に学習を教える「すたはび」を開催した。協議に加わった委員から「自分たちの思いや考えが形になっていくさまを見て充実感・達成感を味わった」との意見をいただき、生徒のみならず、協議に参画した人全てにフィードバックされることが、次の取組への原動力となることを改めて痛感した。
- コミュニティ・スクールの強みを生かし、家庭科での乳幼児体験、社会科での防災学習等、学校・地域連携カリキュラムの充実も進んだ。学びの質の向上や、業務の効率化も踏まえ、この取組を今後も進めていきたい。

●地域から学校に依頼されるボランティア活動の多くは、依然として、当日参加するだけのものがほとんどで、“参画”・“協働”には至っていない。また、地域や子供会の人手不足を補う形のお手伝いが多く、子どもたちの“できること”が増えるとはいいいがたいものも多い。加えて、趣旨の説明や周知ポスター制作、とりまとめ、事前指導、当日の引率・管理等、教員の負担も多いという課題もある。これらを踏まえて、地域学校協働活動をととして学校がめざすもの、めざす子どもたちの姿を地域の方々と共有していく必要がある。

◇地域のボランティア活動は、ふれあいセンターを通じて学校に依頼されることが多い。年度当初に、ふれあいセンター館長や担当職員と協議し、学校の思いや地域とのかかわり方、めざす子どもたちの姿などを共有することで、各団体に伝達されるよう図りたい。そして、地域との協働活動と学校の教育課程をつなげ、子どもの資質・能力をより一層高めるためのカリキュラム・マネジメントを来年度の校内研修のテーマにする。今後も、全教職員で「社会に開かれた教育課程」の実現に取り組むたい。

◇地域協育ネット“夢たまごネット”で、学校間の意思統一を図ることで、9年間、子どもたちと関わる全ての人々でビジョンを共有していきたい。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
5月	「社会に開かれた教育課程」の作成に向けた校内研修会の企画、運営、参加 上宇部中学校区教頭会、学校運営協議会に参加
8月	学校運営協議会に参加
11月	県教委との協議（上宇部中学校区におけるカリマネの歩みについて）
12月	学校運営協議会に参加
1月	上宇部中学校区教頭会
2月	学校運営協議会に参加、夢たまごネット協議会の企画、運営、参加 上宇部小の学校運営協議会に参加

(19) 山陽小野田市立高千帆小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にし、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい学習の基盤となる資質・能力の明確化・学習の基盤となる資質・能力を明確にするためのユニット型研修
- ・学習の基盤となる資質・能力を明確にするための小中合同研修会の企画・運営・学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 4月 県確認問題や全国学力・学習状況調査、学力定着状況確認問題の調査結果を基にして課題を把握し、学校だけでなく市内で解決すべき課題を共有、解決に向けた取組を協議した。
- 情報活用能力の育成に向けたICT教育情報交換会において指導助言した。
- 指導者を招聘しての授業研究を行い、本校に必要な資質・能力の育成に向けて全校で研究した。
- 学校・地域・家庭・児童がビジョンを共有するための児童が参加する熟議の効果的なあり方について検討する必要がある。
- 9年間の学びの連続性を意識した総合的な学習の時間の取組にするために、小中合同での研修等が必要である。
- 教科等横断的な視点から学校・地域連携カリキュラムを見直す機会を充実させる必要がある。
- 学校・地域連携カリキュラムを、地域や教職員に理解してもらう仕組みが必要である。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	全教職員によるカリキュラムの共有、検討 今年度の目指す児童像の共有
5月	コミュニティ会議（学校運営協議会委員、保護者、地域団体代表、教職員）を開催し、知、徳、体の部会に分かれ、学校・地域連携カリキュラムの見直し
6月	研究授業の実施
7月	校内研修（指導案検討、ICTの活用等）
8月	高千帆中学校区合同学校運営協議会で学校・地域連携カリキュラムの見直し、ブラッシュアップ
9月	講師を招聘しての研究授業
10月	講師を招聘しての研究授業
11月	講師を招聘しての研究授業
12月	全教職員による学校・地域連携カリキュラムの見直し
1月	講師を招聘しての研究授業
2月	コミュニティ会議において今年度の振り返りと来年度への改善
3月	全教職員によるカリキュラムの見直し、改善

(20) 山陽小野田市立小野田中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・ 中学校区で育てたい児童・生徒の資質能力、目指す子ども像等の実現に向け、学校・地

域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営

- ・熟議への生徒の参加
- ・学校・地域連携カリキュラム及びグランドデザインの活用
- ・社会に開かれた教育課程の実現のための研修
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を共有するための小中合同研修会の持ち方の工夫
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するための3校合同のカリキュラム・マネジメント連絡会（教頭連携）
- ・めざす生徒像を踏まえた授業改善について地域の方を交えて検討

（3） 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 「学校・地域連携カリキュラム」を見直し、更新ができた。
- 生徒が参加し、主体的に考えさせる熟議の運営ができた。
- 学校・地域連携カリキュラム、及び、グランドデザインの廊下への掲示により、生徒に取組を周知することができた。
- 3校の教員が一堂に会し、学校・地域連携カリキュラムの改訂を行い、3校教頭により取りまとめることができた。
- 学校・地域連携カリキュラムについては、さらに実効性のある活用を進める。
- 地域と連携した多くの活動の意義を教員及び生徒が理解して実践することができるように、参画意識を高める（働き方改革との両立を図る）。

（4） 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	PTA 総会（地域連携の紹介）
5月	学校運営協議会①（生徒参加による熟議：「目指す生徒像の検討」）
6月	小中一貫教育研修会①（授業参観及び検討会）
8月	学校運営協議会②（地域の方が全学調の問題を解く機会を設定）
11月	学校運営協議会③ 小中一貫教育研修会②（学校・地域連携カリキュラムの見直し）
2月	学校運営協議会④（年間の取組の反省・評価）

※年間を通して行うもの

「ここ花運動」～地域の方による花生けと清掃（月1回）

「給食時間のブックトーク」～私立中央図書館司書による（月1回）

「テスト週間の学習支援」～山口東京理科大学学生による（年5回）

「生け花」～地域の池坊の講師による指導（月1回程度）

（2 1） 美祢市立大嶺小学校

（1） 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

①カリキュラム・マネジメントの3つの側面を踏まえた教育課程の整理

- ・児童生徒や学校、地域の実態の適切な把握及び教育の目的や目標の具現化に向けた教育の内容等の教科等横断的な視点での組立
- ・教育課程の実施状況の評価と改善
- ・教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制の確保及び改善

②課題や課題を乗り越えるための取組の工夫

③取組を進めるうえでの学校運営上の工夫

- ・教職員が意識して取り組む業務改善を図った指導体制の整備

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 学校教育目標や育成すべき資質・能力、日々の教育活動等の見直しに対する教職員の意識の向上
- 児童生徒参加型学校運営協議会等の熟議における学校・地域で育成した資質・能力の明確化
- 公民館を中心とした学校、保護者、地域で子どもたちの成長を支える組織づくり
- シンボリックな取組や活動による学校・地域の活性化
- 教科横断的な視点からのカリキュラム・マネジメントの強化
- 教職員による評価を明確にした指導と児童の「個」の変容の共有
- 教職員のやりがいや業務改善につながる仕組みづくり

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	【第1回学校運営協議会】・令和4年度学校運営基本方針の説明と承認
5月	【第1回校長ネットワーク会議】 【第1回ゆめみねット協議会】・令和4年度学校運営基本方針の説明と承認
6月	【第2回校長ネットワーク会議】 【小中一貫教育研修会（準備会）】・小中一貫における児童生徒の交流について
7月	【第3回校長ネットワーク会議】 【大嶺小学校学校運営協議会】・ユニット型研修
8月	【第1回検証プロジェクト会議】【夏休みアートプロジェクト】 【小中一貫教育研修会】・学校・地域連携カリキュラムの進捗状況について報告 ・児童生徒の課題および日々の授業改善について 【第2回ゆめみねット協議会/学校運営協議会】 ・学校・地域連携カリキュラムの進捗状況について報告
9月	【第4回校長ネットワーク会議】
11月	【小中一貫教育研修会】・カリキュラム検証・改善 【第5回校長ネットワーク会議】
12月	【大嶺小学校学校運営協議会】・熟議：学力向上に向けた工夫や見直しについて 【第2回検証プロジェクト会議】
2月	【学校運営協議会/ゆめみねット協議会】 ・令和4年度の成果と課題、令和5年度「学校・地域連携カリキュラム」等について 【第3回検証プロジェクト会議】

(22) 美祢市立大嶺中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ①カリキュラム・マネジメントの3つの側面を踏まえた教育課程の整理
 - ・児童生徒や学校、地域の実態の適切な把握および教育の目的や目標の具現化に向けた教育の内容等の教科等横断的な視点での組立
 - ・教育課程の実施状況の評価と改善
 - ・教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制の確保および改善
- ②課題や課題を乗り越えるための取組の工夫
- ③取組を進める上での学校運営上の工夫
 - ・教職員が意識して取り組む業務改善を図った指導体制の整備

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 学校教育目標や育成すべき資質・能力、日々の教育活動等の見直しに対する教職員の意識の向上
- 児童生徒参加型学校運営協議会等の熟議における学校・地域で育成したい資質・能力の明確化
- 段階的な資質・能力の積み上げを意識した生徒会活動による提案・実践する学びの場の設定
- 公民館を中心とした学校、保護者、地域で子どもたちの成長を支える組織づくり
- シンボリックな取組や活動による学校・地域の活性化
- 教科横断的な視点からのカリキュラム・マネジメントの強化
- 教職員の評価を明確にした指導と生徒の「個」の変容の共有
- 教職員のやりがいや業務改善につながる仕組みづくり

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	【第1回学校運営協議会】・令和4年度学校運営基本方針の説明と承認
5月	【第1回校長ネットワーク会議】 【第1回ゆめみねット協議会】・令和4年度学校運営基本方針の説明と承認
6月	【第2回校長ネットワーク会議】 【小中一貫教育研修会（準備会）】・小中一貫における児童生徒の交流について 【各校職員会】・検証改善方法についての共有
7月	【チーム大嶺中会議】・熟議「生徒会からの提案について」 【第3回校長ネットワーク会議】
8月	【第1回検証プロジェクト会議】 【小中一貫教育研修会】・学校・地域連携カリキュラムの進捗状況について報告 ・児童生徒の課題および日々の授業改善について 【第2回ゆめみねット協議会／学校運営協議会】 ・学校・地域連携カリキュラムの進捗状況について報告

9月	【各校職員会／チーム大嶺中会議】・検証改善および次年度カリキュラム作成開始 【第4回校長ネットワーク会議】
11月	【小中一貫教育研修会】・カリキュラム検証・改善 【第4回校長ネットワーク会議】
12月	【チーム大嶺中会議】・熟議：学力向上に向けた工夫や見直しについて 【第2回検証プロジェクト会議】
1月	【各校職員会】・令和5年度カリキュラム完成
2月	【学校運営協議会／ゆめみねット協議会】 ・令和4年度の成果と課題、令和5年度「学校・地域連携カリキュラム」等について 【第3回検証プロジェクト会議】

(23) 下関市立王司小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・地域課題を解決する等の総合的な学習の時間等を核としたカリキュラム・デザイン
- ・地域素材や地域人材を把握し、そのよさや学校のこだわりを明確にする、「学校・地域連携カリキュラム」の再構成
- ・「学校・地域連携カリキュラム」を活用した、育成したい資質・能力やめざす子供像の明確化

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 地域連携の活動について、定期的に活動内容や年間の計画を見直すことができた。
- 「学校・地域連携カリキュラム」の再構成を進めることで、各学年の総合的な学習の時間を中心とした地域素材や地域人材を生かした学習について学年間の共通理解がなされた。
- 各学年の総合的な学習の時間を充実させることができた。

【3年生の地域素材を生かした総合的な学習の時間の取組】

- ・1学期に、JA王司や地域の方の協力のもと、カボチャの栽培を行った。本来の計画では、収穫したカボチャはJA王司や地域の方と学級毎に調理をすることになっていたが今年度は各家庭に持ち帰らせた。
- ・社会科と関連させながら、学習を進めるようになっている。3学期には、これまでに学んだことをもとにして、「王司のじまん」が抱えている課題や問題点について考え、その解決方法をグループ毎に考え、実践した。最後に、地域の行事を盛り上げるために一人ひとりできることを考えた。
- ・1学期「王司の町を知ろう」、2学期「王司じまんかるたを作ろう」、3学期「王司のじまんを未来に残そう」という単元計画のもと、年間を通して、地域のひと、もの、こ



とを扱った学習を進めた。しかしながら、感染症対策のため、計画通りに進まないことがあったのが現状である。

- 今年度は、コロナ禍の影響で中止になってしまったが、中学校区でめざす子供像を共通にするためにも、小中連携、地域連携の担当者が集まり、協議会を行う必要があった。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	第1回学校運営協議会の企画・準備
5月	第1回学校運営協議会 全校行事「海浜学習」実施
6月	カリキュラム・マネジメント情報交換会
7月	第2回学校運営協議会の企画・準備 学校・地域連携カリキュラムの再構成
8月	第2回学校運営協議会（紙面開催） 東部中校区連携協議会（中止）
9月	カリキュラム・マネジメント情報交換会 カリキュラム・マネジメント検討会議
10月	第3回学校運営協議会の企画・準備 カリキュラム・マネジメント情報交換会
11月	第3回学校運営協議会 カリキュラム・マネジメント情報交換会
12月	カリキュラム・マネジメントオンライン研修会 角倉小校内研修参加
1月	カリキュラム・マネジメントビギナーズ研修会 第4回学校運営協議会の企画・準備
2月	第4回学校運営協議会 学校・地域連携カリキュラムの再構成

(24) 下関市立山の田中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化
- ・社会に開かれた教育課程の実現のためのミニ研修
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するためのカリキュラム・マネジメント連絡会（教頭連携）
- ・学校教育目標等の実現に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 中学校区の小学校2校、特別支援学校1校の4校校長が月に1回会議をもち、連携を強化した。
- 学期に1回は4校の教頭会、教務主任会、研修主任会、生徒指導主任会、教育相談担当者会などを開催し、それぞれの立場で進行管理を行い、連携が進んだ。
- 月スタ（地域主催の学習会 毎月曜日）や、ぷらっと山の田（地域主催の居場所作り体験活動 月1回）を実施することができた。

○地域（にじいろネット）主催の熟議で、児童、生徒、特別支援学校教諭も参加し、愛拶（あいさつ）あふれる町づくりに向けた話し合いをもつことができ、地域に開かれた学校づくりが一步前進した。※毎月8日は挨拶運動

（4）実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	下関市いのちの日(4/13)講演会 講師 安武信吾氏（はなちゃんの味噌汁著者）
5月	月スタ ・ぷらっと山の田 ・読み聞かせ
6月	小中合同研修会 ・小中合同避難・引き渡し訓練
7月	美化ボランティア活動 生徒・地域有志の参加
8月	小学生の学習支援（リトルティーチャー参加） ・小中特4校合同熟議
9月	体育祭の入場制限に対する交通整理棟（元PTA等地域人材）
10月	バリアフリー映画会 市ボランティア連絡協議会主催 有志生徒のスタッフ参加
11月	人権教育講演会 講師 西川悟平氏（7本指のピアニスト） 美化ボランティア活動 生徒・地域有志の参加 小中合同研修会 職場体験 2年生参加 市内55事業所 海峡マラソンボランティアスタッフ
12月	小学生の学習支援（リトルティーチャー参加）
1月	夢授業 講師 下関キャリア教育研究会所属の地域の職業人40人
2月	コグトレ運動会 ボランティアスタッフ参加（有志生徒）
3月	放課後ひろば山の田（人形劇鑑賞）ボランティアスタッフ参加（有志生徒）

（25）萩市立椿西小学校

（1）研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

（2）調査研究の内容

- ・学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・地域課題を解決する等の総合的な学習の時間等を核としたカリキュラム・デザイン
- ・地域素材や地域人材を把握し、そのよさや学校のこだわりを明確にする、学校・地域連携カリキュラムの作成・再構成
- ・地域の強みや課題を明確にするための小中合同研修会の企画・運営
- ・教科等横断的な視点からの教育課程の編成に向けた校内研修の企画・運営
- ・意図したカリキュラムが実現したか検討するユニット型研修（カリキュラムをリデザインする）

（3）調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 学校運営協議会において、毎回、家庭・地域・学校のそれぞれの立場で熟議を行い、子どもたちの現状と課題を共有し、取組について検討、実践、振り返りを行った。
- 小中連携カリキュラムの中の地域と連携した取組に関わる内容を具体的に示し見直した。
- 地域連携の教育活動を、探究的な学習に位置付けられるよう、活動内容や年間の計画を見直しながら、実践した。

- 中学校区でめざす子ども像を共通にするために、2中4小の管理職・担当者が集まり、協議会を行った。
- 来年度も引き続き、中学校区2中4小の管理職・担当者が集まり、中学校区の地域連携カリキュラムを見直す協議会を行う必要がある。
- 総合的な学習の時間の取組と地域との連携を整理し、年間指導計画の見直しを行う必要がある。
- SDGsの視点を入れた教科等横断的な学習を設定し、「追究・探究」を具体化し、学習の成果をアウトプットする場を工夫する必要がある。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	学校運営協議会の企画・運営（または参加）
6月	校内研修等の企画や指導助言
7月	学校運営協議会の企画・運営
8月	小中合同研修会（9年間で育成したい資質・能力等の熟議）
9月	学校運営協議会の企画・運営
10月	校内研修等の企画や指導助言
11月	校内研修等の企画や指導助言
12月	小中合同研修会（9年間でめざす姿・育成したい能力等の熟議）
2月	学校運営協議会の企画・運営

(26) 萩市立萩西中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に児童生徒が参加するための仕組みづくり
- ・地域課題を解決する等の総合的な学習の時間等を核としたカリキュラム・デザイン
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を明確にするための小中合同研修会の企画・運営

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 学校運営協議会での熟議やPTA執行部の方との懇談会を通して、地域の声や保護者の思いなどを知り、今後の生徒会活動に生かしていこうとする意欲につながった。また、学校運営協議会に生徒が参加し、校則について熟議を行った際には、生徒、地域の各立場から萩西中学校の生徒に求める姿について話し合い、生徒の自治的能力を高めることができた。

- 総合的な時間を核とした学校・地域連携カリキュラムにより、地域人材や地域資源を活用しながら、目指す生徒像の実現に向けて学校と地域が連携・協働することができた。
- グランドデザインに基づいた学校評価アンケートを各分掌担当が作成し、生徒・家庭・地域の意見をより具体的に学校運営に反映させることができた。
- 小中一貫教育カリキュラム作成委員会において総合的な学習の時間の学習内容について協議をしたことで、育てたい資質・能力や系統的な学習について共通理解を図ることができた。
- 世界遺産の中にある学校という強みを生かし、小学校時代から町の文化や歴史についてこれまで多くのことを学んできた。中学校においても、より深い探究活動となるように学習の履歴を明らかにしながら、その経験や成果を無駄なく生かす必要がある。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	職員会議（学校経営方針の説明） 第1回学校運営協議会（学校経営方針の説明と承認、年間計画について）
5月	職員会議（学校・地域連携カリキュラムの周知、研修計画）
6月	第2回学校運営協議会（生徒会役員との校則の見直しに関する熟議）
8月	第1回小中一貫教育カリキュラム作成委員会
10月	第3回学校運営協議会（全国学力・学習状況調査、学校評価の中間結果について）
11月	第4回学校運営協議会（小中一貫教育に向けためざす子ども像・付けたい資質能力について熟議）
12月	第2回小中一貫教育カリキュラム作成委員会
1月	第5回学校運営協議会（新生徒会役員との熟議）
2月	第6回学校運営協議会（学校評価総括、来年度の学校経営方針について）

(27) 長門市立仙崎小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・通・仙崎みすゞ学園（仙崎中学校区）で育てたい資質・能力、学園目標、めざす児童生徒像の実現に向けて、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議や協議の企画・運営
- ・学校・地域・家庭の役割を明確にするための通・仙崎みすゞ学園地域連携カリキュラムの見直し
- ・通・仙崎みすゞ学園で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するための小中合同研修会の企画・運営
- ・学校教育目標等の実現に向けた日常の授業改善

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 通・仙崎みすゞ学園で育てたい資質・能力、学園目標、めざす児童生徒像の実現に向けて校長の助言を仰ぎながら3校の教頭が連携し、熟議や協議の企画・運営にあたった。
- 通・仙崎みすゞ学園合同学校運営協議会にて、育てたい資質・能力、学園目標等を改めて共有することができた。
- 通・仙崎みすゞ学園地域連携カリキュラムのグランドデザインの見直しを図った。
 - ・めざす子ども像をゴールとし、9年間を3つの発達の段階に分け、学校・地域・家庭の役割を明確にした。
 - ・より多くの人分かるような平易な表現にした。
- 通・仙崎みすゞ学園で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するために、小中合同研修会や3校が交流する行事等を実施した。
- 通・仙崎みすゞ学園の3校の授業や校内研修会に入り、育成をめざす資質・能力の具体化について、日々の授業レベルで検証できた。
- 見直しをした通・仙崎みすゞ学園地域連携カリキュラムのグランドデザインをより多くの人と共有を図っていく必要がある。児童生徒との共有を新年度の早い時期に行えるとよい。
- 総合的な学習の時間の内容が9年間を見通したものになるよう、探求課題の設定について見直しをしていきたい。
- グランドデザインに示された各部会の役割が3校の学校評価と連動し、評価・改善できるとよい。
- 児童生徒を交えた熟議については、3校中2校で進められている。これから行う学校も含め、目的をもってすべての児童生徒が当事者意識をもてるような熟議を行っていく必要がある。



3校教頭連絡会の様子



第2回合同学校運営協議会グランドデザインの見直し

「通・仙崎みすゞ学園」地域連携カリキュラム（グランドデザイン）

「めざす子どもの姿」

学びを楽しむ子 人のために助ける子 心身ともにたくましく育つ子

学年	通・仙崎みすゞ学園			仙崎中学校			めざす子どもの姿
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
1年	基礎的な学習態度の確立	基礎的な学習態度の確立	基礎的な学習態度の確立	基礎的な学習態度の確立	基礎的な学習態度の確立	基礎的な学習態度の確立	学びを楽しむ子
2年	基礎的な学習態度の確立	基礎的な学習態度の確立	基礎的な学習態度の確立	基礎的な学習態度の確立	基礎的な学習態度の確立	基礎的な学習態度の確立	人のために助ける子
3年	基礎的な学習態度の確立	基礎的な学習態度の確立	基礎的な学習態度の確立	基礎的な学習態度の確立	基礎的な学習態度の確立	基礎的な学習態度の確立	心身ともにたくましく育つ子

「通・仙崎みすゞ学園」地域連携カリキュラム（単元配列表）

学年	通・仙崎みすゞ学園			仙崎中学校			単元
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
1年	基礎的な学習態度の確立						
2年	基礎的な学習態度の確立						
3年	基礎的な学習態度の確立						

R5みすゞ学園地域連携カリキュラム作成途中

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	第1回連携推進会議(4/18)、3校教頭連絡会、
5月	3校教頭連絡会
6月	第1回合同研修会(6/7)、3校教頭連絡会、

7月	3校教頭連絡会
8月	第1回合同学校運営協議会(8/10)←中止、3校教頭連絡会、
10月	3校教頭連絡会
11月	第1回合同研修会(11/29)
12月	3校教頭連絡会
1月	第2回連携推進会議(1/23)、3校教頭連絡会、
2月	第2回合同学校運営協議会(2/21)

(28) 長門市立深川中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

- ・中学校区で育てたい資質・能力、学校教育目標、めざす児童生徒像等の実現に向けた、学校・地域・家庭がビジョンを共有するための熟議の企画・運営
- ・熟議に生徒、若手教員が参加するための仕組みづくり
- ・学校・地域連携カリキュラムを活用した、育成したい資質・能力やめざす子ども像の明確化
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を明確にするための小中合同研修会の企画（キャリア教育、小中一貫教育、地域との連携をキーワードにカリキュラム・マネジメントの必要性について全教職員対象に研修）
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するための授業改善
- ・中学校区で育てたい資質・能力やめざす子ども像を実現するためのカリキュラム・マネジメント連絡会（教頭連携）

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

- 新たなチャレンジ目標設定に伴い、重点取組事項を「学力の定着」「心身の成長」「地域とのつながり」に整理し、教職員の校務分掌を「わくわく学びプロジェクト（知）」「いきいきハートプロジェクト（徳・体）」「ほかほか地域プロジェクト（地域連携）」に再編した。

【チャレンジ目標】 1：学びを大切にする。 授業時間を充実させよう。
 2：人を大切にする。 積極的に挨拶をしよう。
 3：地域を大切にする。 地域に学び貢献しよう。

- 俵山・深川みすゞ学園研究推進委員会で新たに「教頭部会」をつくり、昨年度見直した学校・家庭・地域連携教育ビジョンをもとに「思いや考えを伝える生徒」を育成することを最重要取組事項とし、研修をすすめていくことを確認した。
- 俵山・深川みすゞ学園夏季研修会では、山口県教育庁義務教育課から講師を招き、全教職員を対象に「キャリア教育を核とした小中一貫教育の推進について」の演題で講演をいただき研修した。教員が学びをつなぐ必要があり、学びをつなぐ際には「時間の軸＝

小中一貫教育の推進」「空間の軸＝地域との連携の推進」が大切であることを学んだ。

- 第2回学校運営協議会では、「長門の未来を考える」をテーマに、委員、生徒会役員5名と1～3年目までの教員、地域連携担当教員による熟議を行った。現在の乳幼児、児童生徒数と昨年の出生数をもとに10年先の長門市中学校生徒数や全国学力・学習状況調査のアンケート結果から課題や中学生ができることを考えた。地域との関わりを増やす、地域と子どもがしてもらっただけでなく、してあげることも大切という意識をもつなどの意見が出た。
- 俵山・深川みすゞ学園合同学校運営協議会では、山口大学教職大学院長期研修中の教諭（原籍校深川小）からキャリア教育の視点を生かした小中・地域連携について説明を受けた後、3小学校、1中学校の委員、教職員約60名により「地域でめざす子ども像の共有～キャリア教育の視点から～」をテーマに熟議を行った。幼少期からふるさと長門のよさを体験すること、様々な人との交流の大切さを再認識し、心の拠り所、居場所、自己肯定感、長門の活性化、Uターンにつながるなど様々なキーワードを出し合い、「長門の未来を創るのは子どもたち、それを育てるのは私たち大人」という思いを共有した。
- 8月の熟議を受け、11月に生徒会執行部5名と市議会議員7名との意見交換会を実施した。
- 第4回学校運営協議会では、「よりよい地域、よりよい深川中学校をつくるには」をテーマに委員、新生徒会役員5名と若手、中堅、ベテラン教員による熟議を行った。生徒たちはもっと地域の人と会話したい、交流をしたいと思っていることが伝わってきた、地域の大人として、その実現に力を尽くしたい、とお言葉をいただいた。
- 来年度から長門市では長門版職業講話「ながとキャリアセッション」を全中学校合同で実施し、地域の人から学び、キャリア教育を充実させることとしている。
- 「ふるさと長門に貢献する、まちづくりに参画し、思いや考えを発信する」生徒の育成のために、総合的な学習の時間のさらなる充実と学習材の開拓を行い、ふるさと学習の充実を一層図る必要がある。そのために、今年度末までに「わくわく学びプロジェクト」「いきいきハートプロジェクト」「ほかほか地域プロジェクト」で検討会をもつ。また、来年度からは年度当初と各学期末に検討する場を設定することとしている。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	第1回学校運営協議会の企画・運営
5月	俵山・深川みすゞ学園研究推進委員会
8月	俵山・深川みすゞ学園夏季研修会 キャリア教育、小中一貫教育、地域との連携をキーワードにカリキュラム・マネジメントの必要性を研修 第2回学校運営協議会（生徒との熟議）の企画・運営
9月	第3回学校運営協議会 の企画・運営の企画・運営 俵山・深川みすゞ学園合同学校運営協議会に参加 「地域でめざす子ども像の共有～キャリア教育の視点から～」をテーマに熟議

10月	校内研修会（ユニット型研修、兼学園内臨時採用研修）の企画・指導助言 俵山・深川みすゞ学園がめざす身に付けさせたい力について
1月	市教頭会にて来年度の合同研修会日程検討
2月	第4回学校運営協議会（生徒との熟議）の企画・運営 俵山・深川みすゞ学園研究推進委員会
3月	第5回学校運営協議会の企画・運営

※長門市小・中教頭会では、みすゞ学園内の情報交換会を常時行う。

3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

（○：成果 ●：課題）

令和3年度の調査研究の成果と課題を踏まえて、令和4年度の改善のポイントとして掲げていた重点ポイントは、以下の3点である。

- ◇ 学校教育目標等を実現するために、ユニット型研修の頻度をあげる。
- ◇ 学校運営協議会等において、児童生徒が参加する熟議を充実させる。
- ◇ 学力向上推進リーダーだけでなく、市町教育委員会や県教育庁義務教育課指導主事の学校訪問の際に、カリキュラム・マネジメントシートを活用した管理職面談を充実させる。

これらの重点ポイントに関して、県の独自調査から関連の高いものを以下に挙げる。

【「公立小・中学校における教育課程の編成・実施状況調査」結果より】

(1) ユニット型研修（学校運営協議会委員との授業検討会）を実施している学校の割合

ユニット研修の実施	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小学校	82.1%	82.6%	86.8%
中学校	87.5%	82.3%	83.0%

(2) 学校運営協議会等で、学力向上に関する熟議を行った学校の割合

- ・（ ）は、学力熟議を行っている学校のうち、児童生徒も加わっている学校の割合 ※（－）は調査なし ※令和2年度の調査なし

学力熟議の実施	令和3年度	令和4年度
小学校	90.2%（－）	92.7%（33.7%）
中学校	85.1%（－）	90.8%（55.3%）

(3) 地域とともに小・中学校を通じた「学校・地域連携カリキュラム」を策定した学校の割合

- ・（ ）は、「学校・地域連携カリキュラム」を策定した学校のうち、見直しを行った学校の割合

策定（見直し）	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小学校	98.9%（－）	97.5%（96.4%）	100%（100%）
中学校	98.6%（－）	97.2%（95.0%）	98.6%（100%）

- (4) 「学校・地域連携カリキュラム」を学校運営協議会等で協議した学校の割合
 ・ () は、「学校・地域連携カリキュラム」について協議している学校のうち、児童生徒も加わっている学校の割合

カリキュラムの協議	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小学校	97.8% (10.8%)	96.0% (26.4%)	97.1% (27.8%)
中学校	93.8% (27.1%)	94.3% (39.0%)	97.9% (51.8%)

以上の結果を踏まえた、調査研究全般を通した主な成果と課題を以下に挙げる。

《主な成果》

- ユニット型研修は小・中学校ともに毎年8割を超えた実施率となっている。特に小学校の取組が年々増加している。授業を地域に開き、授業前の指導案検討、授業参観、授業後の振り返りに学校運営協議会委員等が参加している学校が増えつつあることが学校訪問でも把握できた。また、年間を通してカリキュラム・マネジメントを校内研修に位置付け、ユニット型研修を進めている学校に、やまぐち教育フォーラムでの事例発表を依頼し、好事例の全県展開に努めた。
- 研修会や各種調査を通して、「学校・地域連携カリキュラム」の見直しや児童生徒の熟議への参加を促してきたことにより、年々実施率が増加している。「学校・地域連携カリキュラム」を策定している学校については、見直しが確実に行われている。
- 県主催の研修において、学力向上推進リーダーを核とした講話や演習を重ねることにより、学力向上推進リーダーのカリキュラム・マネジメントに対する理解が深まり、学校や教職員への働きかけが充実してきた。研修会での協議における指導助言の内容や、カリキュラム・マネジメント検討会議での「学校・地域連携カリキュラム」の見直しに関する協議等からも、理解の深まりが伺えた。
- 取組状況確認シートの活用により、各校のカリキュラム・マネジメントの進捗状況についてポイントを絞って確認することができ、次の一手を共に考えることができた。

R4 カリキュラム・マネジメントについての取組状況確認シート
 市町名 学校名 校長 訪問者

質問1) 学校運営協議会で熟議を行いましたか。(予定否)	はい・いいえ (実施日 /)
質問1)が「はい」の場合、その際、児童生徒は参加しましたか。(予定否)	はい・いいえ
備考(熟議の内容、開催にあたっての工夫等)	
質問2) 学校運営協議会では、学力に関する課題について協議しましたか。(予定否)	はい・いいえ
質問2)が「はい」の場合、どのような課題や内容について協議しましたか。	
質問3) これまでの学校運営協議会の熟議等で決めたことが学校運営に反映されていますか。	はい・いいえ
備考(どのようなことを決めて、どのように学校運営に反映されているか、またその具体例等)	
質問4) 「社会に開かれた教育課程の実現」に向けたカリキュラム・マネジメントについての研修を行いましたか。(予定否)	はい・いいえ (実施日 /)
備考(研修内容、講師の有無、講師名等) 「いいえ」の場合、どのようにカリキュラム・マネジメントを進めていますか。	

聞き取り内容を記入したシート

質問1) 学校運営協議会で熟議を行いましたか。(予定否)	はい・いいえ (実施日 8/ 夏休み)
質問1)が「はい」の場合、その際、児童生徒は参加しましたか。(予定否)	はい・いいえ
備考(熟議の内容、開催にあたっての工夫等)	<p>未定</p> <p>4月は全校執行部レベルで進めて、生徒の願いや活動方針を成長した。</p> <p>6月に地域連携委員会を行った。委員会では教職員、学校協会の一、五社会系、各小中学校、小学校長、保護者代表、地域と連携し、地域の課題や取り組みについて、運営協議会を協議した。</p> 
質問2) 学校運営協議会では、学力に関する課題について協議しましたか。(予定否)	はい・いいえ
質問2)が「はい」の場合、どのような課題や内容について協議しましたか。	<ul style="list-style-type: none"> 学習の効率化 2-2) 研修... 授業の改善と授業改善について
質問3) これまでの学校運営協議会の熟議等で決めたことが学校運営に反映されていますか。	はい・いいえ
備考(どのようなことを決めて、どのように学校運営に反映されているか、またその具体例等)	<ul style="list-style-type: none"> 「学び直し」: 3人の地域の子と連携し、生徒への学習支援(学習相談等)を行った。 「授業改善」: 2022(令和4年度) 総合イベント
質問4) 「社会に開かれた教育課程の実現」に向けたカリキュラム・マネジメントについての研修を行いましたか。(予定否)	はい・いいえ (実施日 /) 8月・1月予定
備考(研修内容、講師の有無、講師名等) 「いいえ」の場合、どのようにカリキュラム・マネジメントを進めていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価と全教職員研修。カリキュラムの質の向上について

○研修会やオンライン情報交換会を通じて、カリキュラム・マネジメントを推進するにあたって、うまくいかないで困っていることは何か、課題を乗り越えるためにどのようなことをしてきたか、付けたい力を子どもたちと共有し、それが教育活動により育まれているか、それをどのように見取って次につなげているかなどを参加者に問い続け、そこで得られた情報を「カリキュラム・マネジメントの手引き」に取り上げた。カリキュラム・マネジメントを推進する上で障壁となるものを乗り越える手掛かりを具体的かつわかりやすく手引きに掲載することで、生きて働く「学校・地域連携カリキュラム」への次なる一歩を進める足場を固めることができた。

《主な課題》

- コロナ禍により、地域の方が参加するユニット型研修や児童生徒が参加する学校運営協議会等での熟議の開催を見送る学校も少なからずあった。また、地域の方と児童生徒が参加できる時間帯を合わせて熟議を設定することが難しいという声も聞かれた。
- 「学校・地域連携カリキュラム」としての「グランドデザイン」と「9年間の単元配列表」はどの学校でも作成されるものとしての意識は定着しているが、それらを活用して学校教育目標や育成したい資質・能力が育まれるよう、授業改善や行事等、日々の教育活動の見直しにつながっている学校とそうでない学校の二極化が進んでいる。
- カリキュラム・マネジメントは、管理職だけでなく、若手教員やミドルリーダーを対象とした研修を企画し、全ての人が行うものであるという働きかけを行ってきたが、まだまだ自分事になっていない。また、学力向上推進リーダーが訪問しない学校も多くあるため、カリキュラム・マネジメントの裾野を広げていくためには、管理職以外に核となって推進できるミドルリーダーの育成が必要である。

《改善方策》

◇成果と課題を踏まえて、各学校の知見を「カリキュラム・マネジメントの手引き」に実践編としてまとめた。今後は、この手引きを研修会や学校訪問でしっかりと活用しながら、各学校の実態に応じた伴走支援をしていく。

《終わりに》

「これからの時代に求められる資質・能力を育むための教育活動の在り方」をテーマに掲げて研究を進めてきたが、児童生徒が主体的に学ぶ意欲や地域社会の形成に参画する意識や育成をめざす資質・能力への教職員の意識を高めるうえで、コミュニティ・スクールであることが大きな役割を果たしていると改めて実感した。また、「学校・地域連携カリキュラム」というツールがあることで、学校のビジョンや児童生徒に付けたい力が見える化され、カリキュラム・マネジメントについて様々な立ち場の人々の思いや願いを表出し、めざす方向性を共有しやすくなった。

今後も、4年間の調査研究を基に作成した「カリキュラム・マネジメントの手引き」の理論編と実践編を活用しながら、カリキュラム・マネジメントを推進していきたい。

4. 参考資料（別紙）

- (1) カリキュラム・マネジメントの展開に資する手引き
- (2) カリキュラム・マネジメント検討会議の資料（第1回、第2回、第3回）